

第1回仙北市芸術文化振興大会



講演する富木氏

仙北市芸術文化協会主催の第1回仙北市芸術文化振興大会が、10月19日、田沢湖総合開発センターで開催されました。

この大会は、新しい芸術文化の創造を促進し、地域文化の向上と、県民文化のより一層の充実を目的に開催されたものです。

当日は、佐藤貞一会長が「続けよう・磨こう・広げようのスローガンのもと、県内外へ発信していきたい」と、あいさつ。続いて、地域新聞「角館新聞」編集発行人の富木耐一氏が「小さな新聞の役割」という演題で講演したほか、田沢湖の文学碑を巡る史跡等探訪、午後からは各地区会員が、ダンスや舞踏、謡曲などを発表し、楽しく有意義な一日となりました。

たざわこ音楽祭2006 たつ子伝説 - Legend of Tazko -

プロもアマチュアも一緒に参加する、たざわこ音楽祭2006が、10月21日田沢湖畔の瀧分校で、22日仙北市民会館で開催されました。

今年は「たつ子伝説--Legend of Tazko--」をテーマに、初日の21日は、東京や横浜を中心に活躍するギターデュオ・フリーバースやフルート奏者の高橋雅博さんを核に県内で演奏会を開催しているトリオ・オーダーノ、横手市で母の日コンサートなど開催するマンドリンとピアノのデュオ・コンアモレ、特別ゲストとして、東京を中心に活動している女性ボーカルアンサンブル「SHARE(シェアー)」の皆さんが、八郎太郎との愛の物語をテーマに選曲した音楽祭となりました。

また、22日は前日の出演者に角館高校、角館中学校、生保内中学校の吹奏楽部、たざわこ吹奏楽団の皆さんが加わり、迫力と暖かみのある演奏が披露されました。最後には、出演者と会場に詰めかけた皆さんが、田沢湖出身の作曲家・平岡均之作曲の「わかば」を合唱しました。



女性ボーカルアンサンブル「SHARE」のみなさん

開通30周年を迎えて仙岩道路フォーラム

昭和51年10月28日、秋田県と岩手県を結ぶ仙岩道路が開通し、今年30周年を迎えました。この記念すべき年にこれまでの歴史を振り返り、将来を見据えた道路のあり方について考える場として「仙岩道路フォーラム」(NPO法人秋田岩手横軸連携交流会主催)が、10月29日、田沢湖総合開発センターで開催され、約160人が参加しました。

当日は、日本秘湯を守る会会長の佐藤億好氏が「峠の先にみえる風景」という演題で「道路があるとは、人が住んでいて人の心と心とを結んでいる。道路が整備され、すべて東京と同じでいいとは思わない。これからは、それぞれの地域が個性を磨き誇りに思える地域を残さなければいけない」など、全国を見てきた視点での基調講演が行われました。また、角館



講演する佐藤氏



多数の意見が出されたパネルディスカッション

南高校インターアクトクラブによる映像インタビュー、秋田大学助教授浜岡秀勝氏によるアンケート調査の報告、観光・福祉・運輸の分野からのパネリストの皆さんが、「仙岩道路、いま、むかし、そして、これから」のテーマでパネルディスカッションを繰り広げました。

パネルディスカッションでは、それぞれ利用者の立場から「岩手県の平泉が世界遺産へ登録されると、みちのくの小京都角館とを結ぶ国道46号の需要が増える。そのときのためにも仙岩峠を4車線にしてほしい」「秋田県はサイン不足なので案内板を設置してほしい」「特にトンネルの出入口に融雪装置の設置をしてほしい」など、様々な意見が出されました。